

令和 5 年度 学校教育自己診断結果の分析と考察

【昨年度からの変更点】

- ・昨年度よりGoogleフォームでの回答を導入した。昨年度は用紙との併用だったが、今年度からはGoogleフォームでの回答のみとした。ただし、実施については、回答のための QR コードを記載したプリントの配付や、メールを配信しそこからGoogleフォームに入っただけでの回答、授業参観時にタブレット端末を準備し、そこからの回答など、複数の回答方法を準備した。
→保護者回答率は昨年度に比べて 10.2%減少したが、用紙廃止後初めての回であったので、次年度以後継続することで回答率がどのように変化するか推移を注視していく必要がある。
- ・保護者用項目 9 は、学校行事についての項目 8 に含めたため、項目数が一つ減っている。

【保護者向け集計結果】

※肯定的意見 80%未満の項目

- ・設問 13 学校施設設備について <70.8%>
記述意見にも 2 件、教室不足や校舎の改善があがっている。施設の修繕は行っているが、校舎全体の構造が現状にあわず、児童生徒のニーズにあっていない。対応としては、府に改善要望をだすことしか方法がない状況である。
- ・設問 14 他機関との連携について<66.7%>
この設問に対して、「わからない」が 21.7%となっている。
また、教職員用診断では、「学校は他機関と連携し、児童生徒の支援を進めている」の結果が 96.0%となっていることから、学校の取り組みについて、広く伝える方法の検討が必要である。

【教職員向け集計結果】

※肯定的意見 80%未満の項目

- ・設問 7 教育相談体制が整備されており、児童生徒または保護者は、担任以外の教職員にも相談することができる。
①71.8% ②62.2% ③86.0% ④73.9%
高等部は、進路指導や生徒指導など、担任以外の教員との関わりが多く、担任外の教員へ相談しながら生徒への指導を進めている。
- 設問 10 ICTに関する知識・技能が向上し、ICT 機器やシステムを効果的に活用している。
①64.1% ②82.2% ③88.0% ④79.1% 昨年比 4.7%増
中・高等部は、教員だけでなく、生徒もタブレット端末を利用する授業が多く実施されている。小学部は、教員はタブレット端末を利用して授業を実施しているが、児童はタブレット端末と併せてその他の教材を利用している授業が多い。
- 設問 14 学校の施設や設備は、子どもの安全に十分配慮し、誰にでもわかりやすく適切に整備している。

㊦61.5% ㊧68.9% ㊨68.0% ㊩66.4%

保護者結果とほぼ同じような数値となっている。教育庁への予算要求を行い随時対応を行っているが、校舎の老朽化や、建設当時と比較して児童生徒数が増加していることが、原因と考えられる。

設問 16 学校運営において、教職員の意見が反映されている。

㊦69.2% ㊧60.0% ㊨66.0% ㊩64.9% 昨年比 20.8%増

設問 17 教職員の労働環境の改善(業務の効率化、残業時間の削減、ストレスチェックの改善、ハラスメント対応など)において、取り組みがされているか。

㊦59.0% ㊧60.0% ㊨60.0% (昨年比 15.6%増)

肯定意見数は増加しているが、総数は 80%を下回っている。

設問では、具体的な内容が明確にできていないため、さらに安全衛生委員会が中心となり、アンケート調査を実施し、実態を把握する。

※昨年比 10%増加した項目

設問 12 学校は、医療、福祉、地域、その他の関係機関と連携して、児童生徒の支援を進めている。

保護者用結果と比較し、大きな差がある。

設問 13 校内研修は、計画的に実施され、教育実践に役立つような内容となっている。

今年度は、研修の実施時期を課業中でなく長期休業中にまとめた。

研究部主催の研修も、研究授業のみとした。